取組の名称		産官学民が集う社会貢献の場としての荒川河川敷
活動主体（団体名）		特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム
活動主体（団体名）（フリガナ）		トクテイヒエイリカツドウホウジン アラカワクリーンエイド・フォーラム
取組の内容（自由記述）	①概要	荒川の自然環境の保全・再生を目指し、NPOを事務局として、国・沿川自治体、市民、企業、教育機関等が連携し、回収したごみを種類・数量で記録し、発生源や河川/海洋ごみ問題を学ぶ「調べるごみ拾い」や、トビハゼ等が生息する泥干潟の保全、環境学習に取り組んでいる。また、企業との協働による活動財源の確保や若い世代の運営参画、収集データを活用した活動の評価・改善を進め、流域の多様な主体が連携して環境保全活動を継続できる体制づくりに取り組んでいる。
	②取組内容を確認できるURL（または資料添付）	https://cleanaid.jp
	③実施時期、頻度	通年（200回程度）
	④活動場所（所在地）	荒川流域（一級河川荒川）
	⑤活動の規模（参加者数）	年間約1万人
	⑥活動状況がわかる写真（撮影年月日）（既に実施している場合）※	 2026年7月25日  2025年2月9日
対応する社会課題（該当する項目にチェック／複数選択可）	☐	子供の福祉（子供の健やかな成長を社会全体でサポート）
	☐	都民の健康・長寿（誰もが元気で心豊かに暮らせる地域の実現）
	☐	コミュニティ形成（誰もが集い、支え合うコミュニティを至るところに形成）
	☐	防災・減災／気候変動対策（地球温暖化に伴う豪雨や自然災害等の被害軽減）
	☐	地域振興（東京全体の生産性、魅力向上）
	☐	観光・文化振興（人々のウェルビーイング、東京のプレゼンス向上）
	☐	農林水産業の成長（危機に強い産業構造への転換）
	☑	緑や水辺を生かした空間の創出／自然地保全・管理（都市機能を高め、世界を魅了）
活用している生態系の機能（該当する項目にチェック／複数選択可）	☑	供給サービス（日々の暮らしに必要となる資源を供給／食料、繊維、木材、水、薬品など）
	☐	調整サービス（二酸化炭素の吸収）
	☐	調整サービス（都市環境の質の向上／ヒートアイランド現象・暑熱環境の緩和）
	☐	調整サービス（都市環境の質の向上／大気汚染や騒音の低下）
	☐	調整サービス（災害の緩和／台風、洪水、津波、地滑り、雨水浸透、Eco-DRR）
	☑	調整サービス（水質の浄化／窒素やリンの吸収、有機物の取り込み）
	☐	調整サービス（花粉媒介／植物の世代交代、農作物の収穫量の増加）
	☐	文化的サービス（精神を豊かにする機能／芸術的・文化的なひらめき、教育的効果、心身のやすらぎ、観光レクリエーションなど）
	☑	基盤サービス（生息・生育環境の提供）
	☐	基盤サービス（光合成による酸素の生成）
	☐	基盤サービス（地力の維持及び栄養循環）

貢献の内容 （自由記述）	①人間の幸福に対して	当取り組みは、都民に身近な水辺の自然を守り育てることで、以下の3点から人間の幸福に貢献している。 水辺の豊かさ：河川敷のごみを回収し、憩い・運動・自然に親しむ場としての質を保っている。 人のつながり：自治体・企業・学校・市民団体が世代や立場を超えて協働し、地域の交流と連帯感を生んでいる。 学びと自己効力感：「調べるごみ拾い」を通じて、参加者が暮らしと川/海の環境問題とのつながりを理解し、「自分の行動が環境を変える」という実感を得ている。
	②生物多様性に対して	本取り組みは、以下3点から生物多様性に寄与している。 生息環境の保全：トビハゼなど絶滅が危惧される生きものが暮らす荒川下流域の水際・河川敷で、人工ごみを継続的に除去し、生態系への悪影響を抑えている。 海洋への流出防止：街から川を通じて海へ流れるごみを途中で回収し、河川・河口・海域の生きものへの影響を軽減している。 流域全体への視野：上・中流域の市民や自治体と連携し、源流の森の再生や健全な水循環にも目を向け、流域単位で自然環境の回復を目指している。